

**取組実績の概要** 【2ページ以内】

本事業では、両国の「健康寿命の伸長」と「高いQOLを保つ健康長寿社会の創出」を担うライフケア人材の育成を目指している。その目的実現のため、学長主導のもと、ロシア側連携5大学やライフケア分野の企業と連携し、「海外研修」から「健診人材実務者研修」にいたる多層的交流の実施により人材育成を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の中、できる限り派遣・受入を対面留学として行うよう各署に働きかけ、交流留学生総数は計画420名に対して339名であり、人的交流の拡大と活性化に寄与した。補助期間終了後も全学的にオンライン・対面の海外研修、定期的航海研修、医学部付属病院を中心にした健診人材実務者研修プログラムや、政治学研究科及び経済学研究科ダブル・ディグリープログラムの実質運営等を継続する計画がされている。

**【交流プログラムの実施】**

■**ライフケア人材育成に向けた双方向戦略的教育活動**: 両国のライフケア、ビジネスを中心に内容を英語と日本語で学ぶ「グローバル・プログラム科目群」を設置し、**高度な専門知識を身に付け質を担保する単位認定も大学間の協働により実現**することができた。ロシア側の協定大学5校と**連携大学共同プログラム委員会**を設置し、各大学で展開力強化事業に関する情報や検討事項を共有して、問題解決にあたった。ロシア側大学間でも**教育プロセスに関して事業目的達成のため連携協力**したことにより、コロナ禍であっても**6大学の学生が参加するライフケア人材育成を目指す留学プログラムを作り上げることが出来た**。学生間交流のみならず教職員間の協働活動を活性化させて、交流プログラムを実施できたことは本補助事業として意義深い。主な交流プログラムは以下の様である。

- ①**海外研修**: 2017年度は日露双方から各13名の学生が参加した。2018年度は「望星丸」によるウラジオストク航海を実施した。ロシア側から39名、日本側大学からの64名の合計103名による大規模研修を実施した。短期の海外研修は、2020年度と2021年度にオンライン開催としたが、2年度ともライフケア、ビジネスの講義は充実しており、また、小グループに分かれての学生討論は、時差があったにもかかわらず全員が出席して活発に行われた。かつ、ここに日露の教員も同時参加したことは大きな交流実績である。ウラジオストク航海による研修は、2021年度にも大規模に開催する予定であったがコロナ禍での制限でオンライン研修とした。特に21年度の航海研修の代替で行ったOnline Summer Schoolは単位化がなされ研修の質を担保することもできた。
- ②**中期・長期交換留学**: 新型コロナウイルス感染症の中でも対面の派遣・受入でロシア各大学と交流を図り、所期の目標を達する学生交換を行った。
- ③**健診人材実務者研修**: 初年度から2019年度までは対面で実施できた。医療系の実務研修であり、日本側ロシア側も積極的に現場実習を提供して学生はキャリア意識と勉学の意識を高めることができる大変好評なプログラムとして定着した。2020年度は、オンラインのヘルスケアプログラムを実施した。本学医学部付属病院のコロナ新型コロナウイルス感染症対策もあり、2021年度は実施できなかった。
- ④**ダブル・ディグリープログラム**: ロシア側協定大学と学部・研究科カリキュラムの相互開示を行って制度導入に向けた話し合いを重ねてきた。ダブル・ディグリープログラムは、国立研究大学高等経済学院との間で検討が進み、英語による修士課程の**ダブル・ディグリープログラムの枠組みが出来上がった**。

**【事業推進】**

- スタートアップシンポジウム(2018年2月)の開催**: 国内外から政府関係者、学識経験者、実務者、研究者ら100名以上が参加し、連携企業や医療機関、国内外の専門家による発表や留学で育成する人材像や両国の人材ニーズ等についても討論が行われた。
- 事業運営体制の確立**: 大学運営本部の指導の下、本事業の企画、カリキュラム編成、留学生選抜を行う全学的な連携を**プログラム運営委員会**が担った。ロシアの連携大学5校とは、**連携大学共同プログラム委員会**を設置し、**交流学生の学習カリキュラム、学習状況や生活環境を把握し改善を行い、質を保証する体制**が出来上がった。学内評価活動に加え、**外部評価委員会**による客観的な視点で事業の進捗状況を精査し取組みの透明性を担保した。
- 中間シンポジウム(2020年2月)の開催**: 企業実務者・研究者・学生約100名が参加して、ロシア極東地区の健康を支える人材育成、地域住民の健康を増進する東海大学の取り組みの紹介や、ロシア・日本の企業活動と経済協力に関するパネル討論が行われ、今後の展開について意見交換の場が提供された。

- **学生のサポート体制強化:** 本事業の実施を中心的に担った国際教育センターで人材強化を図りロシア語を含む11か国語で対応できる体制を整えた。また、**広報・連携拠点**として本学の**極東オフィス**と**極東連邦大学の日本オフィス**を開設した。さらに、本事業の活動は、特設ウェブサイト、SNS等を通じて、日・英・露の各国語で情報を発信した。
- **産学連携による研修の確立:** 中期・長期交換留学生を対象に、日露それぞれにおいて**企業・医療機関・研究機関等と連携し、日露のライフケア産業や実務を経験する約1週間のインターンシップ**を実施した。また交流プログラム修了後には**キャリア科目**を用意し受講させ成果を上げた。
- **最終シンポジウム(2022年3月)の開催:** ロシアの連携大学5校学長・副学長レベルが参加し、日本国文部科学省、ロシア科学・高等教育省交流担当者が参加して**ライフケアの産学連携研究・ビジネスに関わる基調講演と事業の成果報告**に関して討論が行われ、**事業を締めくくり成果の波及を確認するにふさわしいシンポジウム**であった。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※		15	15	70	60	30	30	30	30	75	65	220	200
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	15	15	74	49	10	30	0	0	0	0	99	94
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)					0	0	20	18	A 28	A 55	55	73
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)					0	0	0	10	B 7	B 0	8	10

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

※2021年度オンラインについては、以下A Bそれぞれの実績値を記入。

A：コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの

B：もともとオンライン実施で準備していたもの

**特筆すべき成果（グッドプラクティス） I 【1ページ以内】****【 I 事業全般について】****・運営体制の充実(相互オフィスの開設)**

2018年10月には極東連邦大学の日本オフィスが本学の高輪キャンパスに、そして本学の海外連絡事務所極東オフィスが極東連邦大学ルースキーキャンパス内に同時開設された。これによって、本学とロシア側連携大学の連携がより緊密におこなわれるようになっただけでなく、積極的な広報活動や交流プログラムに参加する学生へのサポートもより円滑に行える体制が構築された。



極東連邦大学日本オフィスの開設

**・ウラジオストク航海(海外研修)の実施**

交流プログラム「海外研修」においては、2018年8月に本学の海洋調査研修船「望星丸」で日露103名の学生が交流するウラジオストク航海を実施した。日本からは、本学の学生・教職員のみならず、同じく本事業の採択を受けている北海道大学、新潟大学、近畿大学からも学生と教員が参加してウラジオストクを訪問した。ウラジオストクからは、極東連邦大学とサハリン国立総合大学の学生と教員が加わり、静岡・清水港まで航海。航海中は、日露の学生が同じ部屋で寝食を共にしながら、さまざまな課題に、日常よりも高い集中力で取り組むことができた。ライフケア分野における両国の課題と解決策を話し合う日露学生フォーラムを実施し、小グループに分かれて議論をかわし、両国の健康長寿社会の実現やQOLの向上に向けた施策を発表するとともに、この分野における両国の連携の可能性を探った。そのほかにもスポーツ大会や日本文化体験などのプログラムも行った。参加した学生たちは、下船後もSNSを使って日常的に交流を続けるほか、中期・長期交換留学に応募し、この分野への就職活動を進める学生も出るなど、両国への興味・関心を高めるうえで期待以上の効果を上げることができた。



ウラジオストク航海(海外研修)



海外研修小グループ討論(船内にて)

**・中期・長期交換留学、健診人材実務者研修の実施**

本事業採択を契機に、英語・日本語で栄養学や医療、ビジネスなどの専門知識を学ぶ「グローバル・プログラム科目群」を設置した。中期・長期交換留学に参加した学生は派遣・受入にかかわらず、この科目群より12単位以上を取得することとし、2019年度から全学的に展開した。研修プログラムでは、ライフケア分野に関する講義・実習だけでなく、派遣先の医療機関や研究機関、企業の実務を経験する1週間程度のインターンシップも実施して即戦力となる人材育成へ寄与した。コロナ禍では、インターンシップ受入れ困難な面があり、特にモスクワでは受入れを中止するケースが見られたが、国立研究大学高等経済学院では大学機関内でのインターンシップを実施するなど相互協力の体制構築に積極的に取り組んでもらい、研修プログラムの内容充実を達成した。

健診人材実務者研修  
(極東連邦大学にて)

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ【1ページ以内】

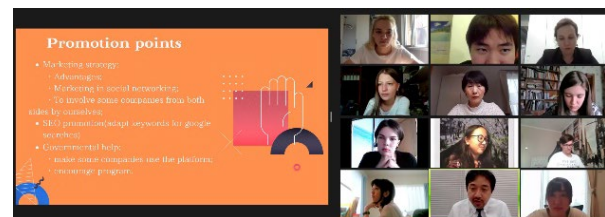
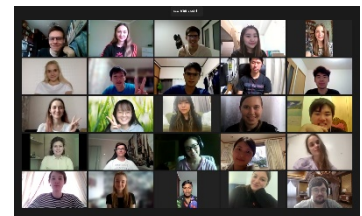
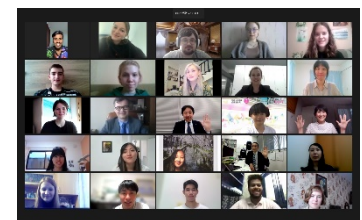
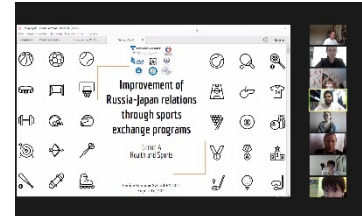
## 【Ⅱ オンラインの活用について】

事業計画では、当初、海外研修は、多くの学生に相互の国について知り異文化と多様性への興味を持ってもらうことが主目的で、本格的な海外留学のきっかけをつくる第一段階として位置づけをしていた。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、2020年度にはオンライン授業を中心としてより深化させ、海外研修「オンラインサマースクール」としてライフケア分野の速修プログラムに発展させた。

具体的な構成は、①ライフケア分野に関しての課題を中心に据えてのオンライン講義 ②各学生のプレゼンテーションを行った後にディスカッションを行う討論形式授業 ③学生同士のプロジェクトベースラーニング及びチームビルディングをうまく取り入れたブレンドの集中講義形態が出来上がり、2021年度にはさらにこの内容を深めた。この結果、幅広くライフケア分野の知識を修得して、コミュニケーションする力・チャレンジする力・異文化を理解し・対応する力を養うことが可能で、当該分野に興味を持つ多くの学生が参加する海外研修(短期)プログラムとなり、日本とロシアの両国学生交流を非常に活発化することができた。このような講義内容やカリキュラムは、学内のプログラム運営委員会で議論しロシア側連携大学と密に討論して詳細を決め、さらに、参加学生の評価方法についても検討を進め、最終的に6大学間が協力して短期研修プログラムを作ることが出来た。 今後も改善を続けて、さらに充実したプログラムへ仕上げて行くことにも道筋をつけた。また、本事業の所期の目標ではないが、上記に加えて、ロシア側の5大学間の中でロシア人学生同士での交流も実現することも出来た。

このようなカリキュラムや評価の定量化の制度づくりが進んだため、2020年度までは海外研修に対しては、単位付与を行ってこなかったが、2021年度には、2週間のセッション科目として学内で認定を受け、オンライン留学単位として出席学生に履修単位取得が可能となり、海外研修が学生にとってキャリアを意識した、速修留学プログラムとして国際大学間交流の新たな形をつくることができた。

この履修形態は、今後、「留学」で新たな成果をもたらすばかりか、一部の一般の授業にも波及し、学びの質の向上に寄与できるものである。



海外研修 6大学間オンライン討論会  
(海外研修「オンラインサマースクール」)